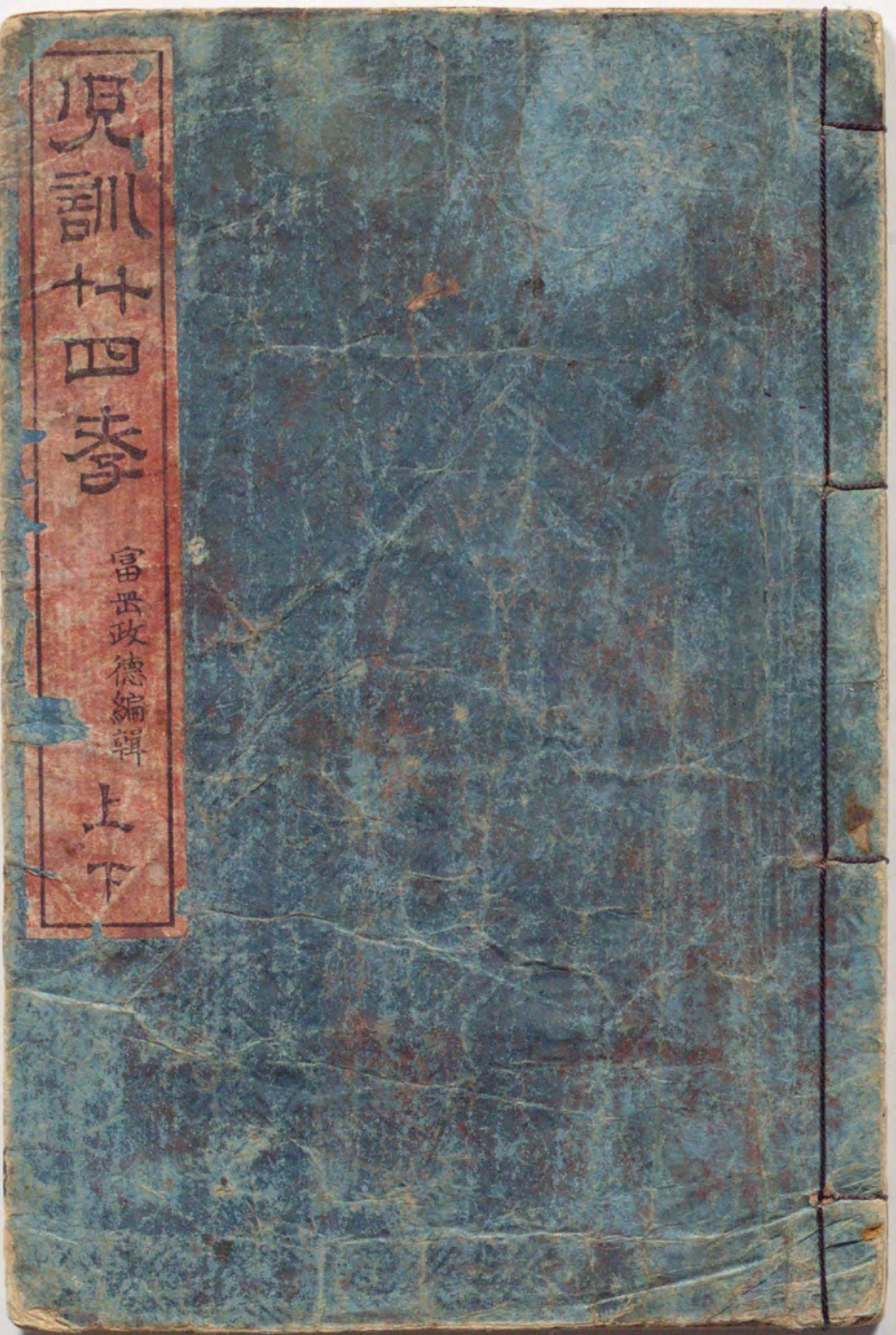
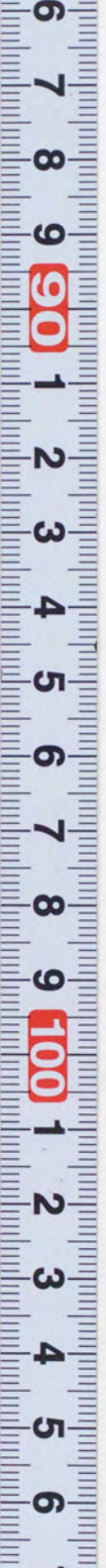




曆口堂上梓

児訓二十四孝

富岡政徳編輯
歌川國曆畫



孝の徳より夫は夫大なる哉天神地祇も之を感
動し強賊惡獸も之を畏服も亦これ孝子に
由るの傳へ普く人々之を膾炙し之を能く奉
知らしむるこそ久しけれ幼稚より之を
善道に導びんことを家の方便なりまれば孝
人として必ず履むべきの道なり此をわが
家一人として人道の背反する者あらんや故
に聖者も此道を示して教へて来せしや

や知^ちの目^めふ達^{たつ}て人^{ひと}皆^{みな}夢^{ゆめ}に就^つくさうなく修^{しゆ}身^{しん}
 の教^{かう}へ亦^{また}此^こ中^{ちゆう}に可^かく加^かふ類^{るい}書^{しよ}江^{かう}湖^このふ
 うらぐと雖^{いひ}も尚^{なほ}是^こよりとすべし其^{その}努^{ゆめ}めを弘^{ひろ}
 むべし此^こを以^{もつ}て天^{てん}神^{しん}地^ち祇^ぎも之^{これ}を感^{かん}動^{どう}し
 淫^{やん}賊^{ぞく}惡^{あく}獸^{じゆう}も之^{これ}を畏^{おそ}服^{ふく}と孝^{かう}忠^{ちゆう}德^{とく}をさすまは
 大^{だい}なる哉^{かな}

明治十六年季秋著都乃士志



魯^ろの國^{こく}の必^{かならず}虎^こ來^きて父^{ちち}を食^くりんと
 女^めあり父^{ちち}の事^{こと}を
 へて孝^{かう}ん父^{ちち}と共^{とも}山^{さん}へ行^いきし時^{とき}
 虎^こ來^きて父^{ちち}を食^くりんと
 楊^{やう}香^{かう}虎^この首^{くび}を
 我^{われ}を食^くか
 て父^{ちち}を助^{たす}けよ

あげきけれハ猛^{もう}獸^{じゆう}とて
 とも其^{その}の孝^{かう}心^{しん}を感^{かん}じ
 てあけうせ
 こころを

楊^{やう}香^{かう}
 猛^{もう}虎^こ
 救^{きう}父^ふ

大舜の諸
 馮と云明
 お生れ父
 お鼓腹
 と云幼
 くして
 母を
 喪ふ繼
 母お象
 とつと
 男子あり
 父頑お
 して後
 妻の子

眞舜
 孝感動天



唯父母
 順あり終に
 大孝の名
 あらわれ
 堯帝これに
 天下を憚る
 曾て
 歷山に耕をとき



鳥獸
 来りてその
 徳を助く孝徳の
 天を感ぜしむくの
 こと

漢文帝 親嘗湯藥

帝の名を恒と云ふ高祖の中子ありて天子の位に即く母を
薄太后といふ母病み罹りてまゐるときは昼夜
衣冠をとき
こま
つぎ
薬を嘗て
これを試み朝夕の
食にいつるまで
自ら母にさぐめ
尊とき天子の
御身にしく斯く親み事へ



ふまのありぐんき
あまの帝めと



恭儉なる仁徳の
君ありて百姓
を愛し田租を
免し
ふ



○ 閔損泣いて父を諫めひとすら
母の罪を謝せりと



閔損 單衣順母
字の子禽孔子の弟子ありと
父母の孝あり如くして母
に後れ繼母の二人の子あり母
閔損をやめども恨みず或とき
父と共に出るにあり父の寒
みえがときさまを見てその衣をこれに綿を
入れずありと父大に怒りて後妻を去らんとす。



仲由 爲親買米

仲由の孔子の弟子あり家
貧しく人の米を乞ひ
その賃錢を取りて餓く
父母をやある父母没して
後君ふ仕へて大なる功あり
つひに富貴の身とあれども
それをあるこそ曾て貧しき
とき父母をやあるいふべき
ことの常あり

あけきうあ

ふーと



強て妻とみ
 らんことを願
 ゐより共ふ
 主人の家又
 到りけりが
 其美人一月
 にして三百匹
 の絹を織りそ
 のおひめをつく
 のひ我の天の織
 女あり汝が孝心
 お感じておひ
 めをつくるおひ
 とく雲ふ



董永
 賣身葬父
 董永の後漢の人
 あり母を後れ父の事
 へて孝あり父没されども
 葬むべきにてあつねあ
 雇より主人ふその由を告げ
 錢十貫文を借り永くその
 家の召仕とらんと約束し錢
 を得て父を葬む而して其
 家にお到らんとす道ふて美人

のりて去り
 ーとぞ



剡子
鹿乳奉親



剡子其姓氏を詳らかなせど
 傳て孝行の名あり
 父母老て眼を患ひ医療
 を乞ひふ鹿の
 乳を用ゐされ治
 ぐといふまれば
 死せる鹿より乳を
 求るよりみきあ鹿の皮を着て山中へ
 行き鹿とまじりて乳を求めんとす獵人
 これを射らんとす剡子ちどろきて其實を
 語りければ獵人もわひふ感
 弓矢をもちて去りぬこれ天
 孝行の志をめぐりて必死の矢を
 まぬがれしやあるべしとふ



陸績 懷橘遺母

三國のときの人あつて六歳のとき袁術といふ人のもとへ行き
 する橘を盛りて出さう陸績三箇をふところあ入れ歸
 らんとするととき腰をうめければ懷より落ちさう
 袁術おもひみ其さうきを咎めければ珍ら
 しき果子をむけお食さんより持ちよりて
 母あゝ人あありと答へ
 ければ座中の人さう
 感んぜりさう





唐の世の人にて
 姑長孫夫人の
 孝あり姑老て
 食事心不任せむ
 朝夕乳をふくめ
 て養ひるや



長壽を保てり姑
 病で死ふのぞみ
 子孫を招き我
 が長命せし
 唐夫人の恩
 あり今其恩を
 も報へずと死するこそ
 うらみあり子孫のともが
 らこの夫人の孝心せよ
 び行あらん永く繁榮を
 らんと遺言せりとらん

唐夫人
 乳姑不怠



孝心ありきこと
感ぜるもあま

あま



呉孟
蚊飽血

呉孟何れの世の人と
るを知らず八歳ありて
孝行の名を稱せ
る家貧ありて
蚊帳より裸体
ありて
父母の側
の側
臥し
血をすくふことをやせ父母の
老て血氣薄し我の血氣さん
あれは飽まで食ふべしとて
身をときぎ父母のく
へとびやんとをせられ
恣ましく我身をあそけり如く





王哀
 の母甚なり
 雷を恐る
 雷の催あ
 れば遠くお行
 きても直まお歸
 りて母とあひあ
 けり母死後も
 雷の鳴る毎に墓へ
 行きて母びと恐れとまある
 王哀こふありとて墓の
 くりしを去らざりしとぞ

王哀
 聞
 泣
 墓



曾子孔子の弟子あり山へ薪をとり小行
 きしあどあて母の親き人來れり母もてゐさんと
 思へども心ふまらず曾子の早く歸らんことを
 かみひ指をうぬけり曾子の山あて胸痛をける
 母不其と告
 孝子親をわ

曾子
 震指痛心